

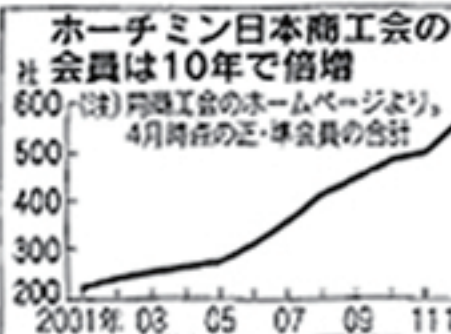
高級マンション・ビル管理



管理を受託した高級マンション（ホーチミン市）

現地企業と合併

不動産開発のオカムラホーム（千葉県八千代市、金子保夫社長）は、日本企業の進出が活発なベトナムで不動産管理事業を始めた。現地の企業と合併会社を設立し、ホーチミン市にある高級マンションなどの設備管理、警備などを担う。消費税が引き上げられたときに予想される国内の不動産販売の減少に先手を打つ形で、成長が期待できるアジア市場を開拓する。

アジア展開
足がかりに

合併会社はオカムラホームが60%、不動産大手のナムロンク（ホーチミン市）が40%出資し、資本金10万円で設立した。社名はオカムラトキヨ1。日本から派遣した社長を含め社員5人で業務を始めた。

既に外国人居住者の多い新興住宅地区で日本人学校もあるホーチミン市7区で、3棟の管理を受託した。1棟は高級マンション（65戸）とオフィス（20区画）の複合ビル。合併企業がビル全体の警備業務や設備の保守管理、清掃、フロントサービスなどを請け負う。ナムロンクのオフィスが入る事務所ビルと、1階部

オカムラ、ベトナム進出

分が飲食・小売店で上層部が住居の複合ビルの管理も受託した。

オカムラホームは子会社を通じて、千葉県を中心として約2500戸のマンションやオフィスビルを管理する。ベトナムでは日本の実績をもとに「効率的できめ細かな管理ノウハウを提案し受注物件を増やしたい」（金子社長）考え、年間10棟前後の管理受託を狙う。アジアの他国への進出に備え、ノウハウを蓄える狙いもある。

円高などを背景にベトナムに進出する日本企業は増加傾向にある。ホーチミン日本商工会の会員企業は4月段階で560社と10年で2倍以上に増えた。日本企業による不動産投資も活発だ。

オカムラホームは1995年設立の不動産会社。宅地、住宅を中心に年間約34億円の売り上げがある。千葉では戸建て住宅分譲や事業用不動産開発なども手掛ける。